

日本型自動走行を目指して  
名古屋大学情報科学研究科 武田一哉

自動車技術と情報技術が急速に一体化する中、グーグルの試みを契機にいわゆる「自動走行」への社会的な関心が高まっています。自動走行には映画に出てくる近未来の「夢の技術」のイメージがある一方で、自動走行が社会にもたらす「価値」については、あまり深い議論が行われていないと思っています。講演では、我が国の産業や社会の発展に向けて、自動走行技術をどのように研究開発すべきかということを念頭において、大きく2つの話題についてお話したいと思います。

まず講演の前半では、経済産業省の協力を得て、今春2回に渡って開催された「自動車の情報化に関する研究会」の議論を紹介します。研究会での議論を通じて得られた、「情報技術を利用して『自動車の価値』を高める道筋」に想定される5つのチャレンジ（自動車のプラットフォーム化、自動車の個性化、位置情報の公共化、運転の仮想化、FOT (Field Operational Test)）を説明します。

後半では、研究会での議論を踏まえつつ、名古屋大学のグリーンモビリティ連携研究センターで進められている関係プロジェクトを3つ紹介させていただきます。第一のプロジェクトはFOTに関連したドライバデータ収集プロジェクト、第2のプロジェクトはプラットフォーム化に関連したデータ統合プロジェクトです。そして最後に、ZMP様との協力の下で始動した、自動走行実証実験プロジェクトを紹介し、日本型の自動走行の有るべき姿を考えたいと思います。



自動車の情報化に向けた5つの論点（「自動車の情報化」研究会）

